

## 評価委員会総合評価

研究課題名：高精度な津波数値計算結果を用いた津波の地域特性の理解

### 評価委員

委員長：竹内義明

委員：高薮出、大野木和敏、石原幸司、前田修平、山田雄二、青梨和正、  
鈴木修、石井雅男、橋本徹夫、齋藤誠、行本誠史、丸本大介

評価年月日：令和2年2月17日

### 1. 総合評価

- (1) 実施の可否  可  否  
(2) 修正の必要の有無  修正の必要あり  修正の必要なし

### 2. 総合所見

本研究は、個々の領域における津波の伝播、高さ分布、時間変化、遡上などを詳細に見ることは防災対応を検討する上で非常に重要であり、有効な研究課題である。

過去並びに近い将来に発生しうる大きな津波への備えは、極めて重要である。本研究で実施する最新の数値シミュレーションに基づく、地域毎の特性把握は防災機関としての気象庁にとって有益である。また、特性把握等の研究を通じて、現地官署の津波に関する知見が深まり、対外的な説明などにおいて役立つことも期待できる。

一方、成果のイメージが十分に固まっていないと思われるので、気象研究所と地方官署の担当者でよく話し合って到達目標を定めて頂きたい。

なお、研究の実施にあたっては、以下の点について留意して進めて欲しい。

- ・過去のシミュレーション結果とどこが違うのかに留意して、指導して欲しい。
- ・計算結果の解析について、地方への指導をよろしくお願いしたい。
- ・地方官署と気象研究所が相互に緊密に連絡を取り、単にモデルの出力結果を調べて終わることのないよう、目標の達成に努めて頂きたい。
- ・津波は事例が少なく、“予測精度”の検証は実際には困難になる可能性を感じた。成果をもう少し抑えて確実に到達できる目標するようにした方が良い。
- ・地方官署の職員が実際にシミュレーションを行い、内閣府の津波シミュレーション結果と遜色ない詳細な結果を持つておくことによって、より深い知見を得ることができ、地震・津波担当の職員の資質の向上も期待できる。
- ・また、地域の特性を明らかにすることはモデルの改良にも寄与ものと考えられる。
- ・津波についての各地域の観測データとの比較でモデルの地域特性が理解される点は大変興味深い。